

R-18
FOR ADULT



sparkling vocation @ DL

涼月くらら (pinvise)



—夏休み—

三年ぶりに会った千夏ちゃんは
相変わらず綺麗だった

僕より四つ年上の千夏ちゃんは
この三年で就職したり
二級船舶免許を取得したりで
昔より少し遠くに行ってしまった
感じがしたけど

どこ見てんのかな？

そして僕を驚かすために
着てきたという三年前の水着は：

どう見ても
サイズが合っていない

#1
お船でスパーキング

こうして二人っきりになると
あの頃のように姉弟みたいに
接してくれる

千夏ちゃんは僕を
からかうように
その大きな胸を自慢げに
見せ付ける

僕は真っ赤になった顔と
膨らんだ股間が恥ずかしくて
海に飛び込みたくなる

三年前の続き、
しよっか？

そう言くと千夏ちゃんは
僕の両手を掴み
躊躇いもなく自分の胸に
押し付けた

汗でじんわり湿った
千夏ちゃんのおっぱいは
僕の手を飲み込んでしまうかと
思う位柔らかい

…三年前、
僕と千夏ちゃんは一度だけ
興味本位でエッチを
しようとした事がある

ポイント♡

密着した千夏ちゃんの
肌の感触と体温が
僕の心臓の鼓動を早くする

あれから三年…
今はこの誰もいない
広い海の上で
僕達は二人きり

たぽっ

でもその時は千夏ちゃんのお爺ちゃんに見つかりそうになって結局何もせずに僕は東京に帰った

ん？
気持ちいい？

千夏ちゃんは既に硬くなっている僕のモノをゆっくりとパンツから開放してそっと触れる

千夏ちゃんに触られているというだけでイってしまいそうになる僕…

千夏ちゃんはそんな僕の反応を楽しむようにその細くきれいな指で僕のちんちんを優しく攻める

僕は気を紛らわそうと目を瞑り目の前の大きなおっぱいに夢中でむじゃぶりつくけど

口の中で感じるぶっくりした乳首の感触と汗の味で更に興奮してしまい

その白くて柔らかな手の平に勢いよく出してしまった…

ビュル

ビュル

僕は初めて人前で出してしまった混乱と
射精後の脱力感で放心状態になっていた

でもそれも束の間、
千夏ちゃんは大きく股を開き、

小さな水着を引っ張り
割れ目に食い込ませる
ようにして僕の気を引く

じゃーん♪

食い込ませた水着を
ゆつくりとずらし、徐々に露わになる
千夏ちゃんの性器に僕は釘付けになる

水着に引っ張られてチクリと見える
ヒタヒタは既にしっとり濡れて
いやらしく光を反射してる

千夏ちゃん：

すごい濡れてる…

んもー

そういう恥ずかしい事
言わないの！

小さい頃一緒にお風呂に入った時は
なんとも思わなかったのに、
今は一瞬たりとも目が離せないのが
不思議だった

…気が付くと僕は
自慰を始めていた

千夏ちゃんの前で
こんな恥ずかしい事ができる
自分が信じられなかったけど、

はぁ

はぁ

はぁ

シュツ

シュツ

はぁ

そんな事もう
どうでもよくなってる

千夏ちゃんがすると
水着を脱いでる間も
僕の右手は止まらず、

これから本番という時に
僕はまた果ててしまう…

あらら

大ちゃん
焦りすぎ！

千夏ちゃんはその様子を見て
笑って受け入れてくれるけど

僕は言い様のない
自己嫌悪でまたしても
海へ飛び込みたくなった

凹む僕を余所に
千夏ちゃんは自分で
おまんこを広げ

ピンク色のきれいな内部を
丸見えにして僕を誘っていた

だ〜いちゃん♪

あん!

さっきまで気まずさで縮こまっていた
僕の気持ちとアソコは一気に膨れ上がり

吸い寄せられるように
千夏ちゃんに挿入した

「・・・!!?」

途端に容赦ない快感が
一気に押し寄せる

熱い肉壁と溢れる粘液で
僕のちんちゃんはホントに
溶けてしまいそうだった

千夏ちゃんは
大きなおっぱいを揺らしながら

それまで聞いた事のない
可愛い声で喘いでいる

その声に釣られて
僕も言葉にならない
情けない声を漏らしてしまう

んん... あ♡
あ♡ん♡
あ♡ああ!!

あッッ

ゴッ

ゴッ

ズッ

ズッ

…出したい
今すぐにでも

はあ
はあ

んちゃ
ちゃ

気持ちいいね

イきたい？

いっよ、
出して

ドク
ドク
ドク

千夏ちゃんその言葉を
合図にするように
僕のピストンは急激に速まり、

朦朧とする意識の中、
僕は千夏ちゃんの膣中に
何度も何度も痙攣しながら

ああ♡
ああ♡
ああ♡

これまで経験した事がないくらいの
長い射精をしていた

そんな事を考えてる僕を
千夏ちゃんは強く引き寄せ
お互いに荒い息を漏らす
口と口を重ねる

容赦なく侵入してくる
千夏ちゃんの舌に
僕も負けじと舌を動かすけど

止まらない腰に気を取られて
応戦一方になる

がー!!

怪獣チンポゴンの容赦ない
攻撃が正義の使者
チクビクトリィを襲う!

このまま地球はチンポゴンに
支配されてしまうのかー!!

…何やってるの
千夏ちゃん…

反撃♡

だって大ちゃん、
ヒーローって
好きだったでしょ?

心地よい疲労感と
静かに吹く潮風が
気持ちいい

僕達はいっさっきまでの
興奮が嘘のように
リラックスしていた

とはいえ僕のちんちんは
いわゆる半勃起状態で

千夏ちゃんもまだまだ
やる気満々に見える

「おれチンポ」ン！
こつなったら最終手段だー！」

さっきまで無邪気な
ごっこ遊びをしていた
千夏ちゃんが
今は貪るようにだれを
垂らし、僕のモノを
しゃぶっている

本当に食べられてしまっ
たのではないかと思うほどの
激しいフェラチオは、

圧倒的な攻撃力と
破壊力を有しており、

僕の怪物チンポンは
成す術も無く敗北した！

千夏ちゃんはそう言うと
僕のちんちんを口に含む

ねっとりとした熱い感覚に
一気に硬さを取り戻す
僕のチンポゴン

僕は気持ちよすぎてその場に
へたり込んでしまいそうに
なるけど、足を踏ん張って
必死に堪える



僕達は何回か休憩を挟みながらち
飽きる事無くエツチを続ける

正直僕は体力には自信が無かったけど千夏ちゃんとエッチができるならいくらでも頑張れる気がした

僕は汗だくになりながら
何度も何度も千夏ちゃんの
名前を呼び腰を振り続ける

すごいよ大ちゃん！

おちんぼ：
また硬くなったよ！

千夏ちゃん

千夏ちゃん

あゝん♡

僕はもう千夏ちゃんに
夢中だった

でも今は何ひとつ
千夏ちゃんに追いついていない

あ♡

イクよ♡!!
大ちゃん!!

いっしょに..
イク..
イク..
イク..
あ

あ♡..
あ♡

ただどいつかはその横に
立てる強くてカッコいい大人に...

そう誓った矢先、
僕は翌日から三日ほど
寝込んだ

ちょっと
がんばりすぎ
ちゃったね



ビクビク
ミクミク



#2
お家でスパークリング



草木も眠る丑三つ時：
僕は今、夏休みの里帰り中で
こっちの幼馴染の千夏ちゃんの家
にお邪魔している。



数日前に「ちよっとした事」があつて
熱中症で倒れてしまった僕は、
しばらくの間千夏ちゃんの家
にお世話になっていた。

ここ…千夏ちゃんの部屋だ

千夏ちゃんまだ起きてるんだ
なにして…



…ちよ…!!
こ、これは!?

これは
見ちゃいけないやつだ…!!



ま、マズイ…
寝起きたから過敏に反応して…



ダメだダメダメ…!!
ここは見えて見ぬフリして
クールに通る過ぎるんだ!
そう、クールに!
凍て付けマイハート!!

…だがしかし

はあ
はあ

はあ

僕はクールどころか
この状況で最高にフルな
行動を取っていた…

物欲しそうな切ない表情を
浮かべつつ、声を殺して
無心に手を動かす千夏ちゃん…

露になった肌と聞こえてくる
荒い吐息は否が応にも数日前の
記憶と感触を鮮明に思い起こさせ、
僕の興奮を更に高める…！

そして…

僕と千夏ちゃんは
ほぼ同時に達した…

自分の節操の無さに呆れる
余裕もなく僕は初めて見る女性の
オナニーに釘付けになっていた。



!!!?

こんな気持ちになるのは
やっぱ神様が見て…

…
…
…
なんかこんな風に
自己嫌悪するアニメあったな…

ぬぎゃあ

まぶしい光に目が眩みつつも
視線を上げると、

そこには
後光が差した千夏神が
不敵な笑みを浮かべて立っていた。

んんん

千夏ちゃんは無言で僕を
自室に連れ込むと、
惜し気もなくそのたわわな
おっぱいを晒す

気付いてないとも思った？

この部屋の前の廊下は
誰かが通ると軋むから
すぐ分かるんだからね！

ポロポロ♡

今日はお父さんもお母さんも
帰ってこないからたっぷり
おしおきしてあげるね

そう言つと千夏ちゃんは
そのしなやかな脚を伸ばし、
半勃起状態の僕のアレを
やや乱暴気味に踏みつける様に
足裏で弄り回す

僕は情けない恰好になりながらも
その初めて味わう刺激に思わず
声を漏らしてしまう

ん？ちよっと待てよ…

それじゃあ千夏ちゃんは
僕に気付きながらも自分のオナニーを
見せ付けてたってこと…!?

ちよ…
痛…！
っあ！
グッ

グ…ごめんなす…
ああ！

!?

ていうかこれは
おしおきなのか!?

千夏ちゃんの真意はともかく
僕は言われた通りその濡れた
割れ目に舌を伸ばす

初めて味わう千夏ちゃんのアソコは味らしい味はしないけど、

溢れる愛液と舌と唇に
感じる熱く柔らかな
感触に僕は夢中になる

ほら、

こ、これはいわゆる
シックスナインというやつか……！！

そして僕達は
言葉を交わす事も無く
ただ無心にお互いを
貪っていた。

ん
ちゅ
ちゅ

千夏ちゃんの手がエッチなのは
相変わらず凄かったけど
今回は僕も負けじと愛撫を続ける。

でもそれに対抗するように
千夏ちゃんはその熱い口内と
たっぷりの唾液で僕のちんちんを
激しくしゃぶり回す

頭を激しく上下させ、
いやらしい水音を立て、

僕は腰ごと持って
いかれそうになりながら、

僕はいつの間にか
みっともなく喘いでいた

でも千夏ちゃんは一向に
その勢いを緩めようとはしない

あの綺麗な顔で
時に下品なほどに僕のモノを
貪る千夏ちゃん…

何の前触れも無く
千夏ちゃんの口の中に
勢い良く出して
しまっていた…

射精後の余韻も束の間、
千夏ちゃんは催促するかの
ように僕のモノを自分の
股間にあてがう

く
にゅ
く
にゅ

ん

大ちゃんのコレが…欲しくて欲しくて
たまらなかったの

そしたら…
大ちゃんの方から
来てくれた

ん!

千夏ちゃんの言葉に
僕のちんちんは
一瞬で硬度を取り戻す
そしてゆっくりと焦らすように
腰を落としていく千夏ちゃん…

にゅ
ぶ
にゅ
ぶ

ドキ
ドキ
ドキ

ねえ、大ちゃん
私さっき大ちゃんの事を想って
オナニーしてたんだよ

はあ

はあ

突然ドキッとする事を
言う千夏ちゃん

私の想いが…
伝わったのかな?

あ:

柔らかくねっとりとした
感触が亀頭を覆つと、
僕の心臓は期待と興奮で
異常なほど速く脈打っていた…



大ちゃんのおちんぽ…

また…
食べちゃったあ

あん

あはっ

やつ…たあ!

僕のモノが完全に千夏ちゃんの
膣中に入ると、
千夏ちゃんは間髪入れずに
体を上下に揺らして
ピストン運動を始める

僕に体重が掛からないように
気を遣いながらも確実に
奥まで突き入れるように器用に
動く千夏ちゃん…

大きなおっぱいは形を変えて
激しく揺れ、艶やかな髪は
軽やかに振り乱れる

既に射精感を堪えるのに
必死なのに、そこへ
こんな視覚的刺激が
加わったらその瞬間に
確実に果ててしまう

そのあまりにいやらしく
踊る千夏ちゃんの身体を
僕は直視できない…

僕はぎゅっと目を瞑り、
弾むおっぱいを手探りで
掴まえると夢中で
むしゃぶりついていた

そして溺れるように
その白く吸い付くような
肌に飲み込まれていく…

密着して交じり合う体温と
熱く濃厚なキスに
心をも溶かされていく僕は、

全てを捧げる様に
千夏ちゃんの中に放っていた

気持ちいいん

あ

ニヤ

ビクビク

ちゅんちゅん

…ああ！
窓の外は既に白み始めていた
だけど僕は快樂の沼から
抜け出せずにいた

千夏ちゃん！
またイクー！

イっちゃうよ！！

いいよ…

きて！！

110%
110%
110%

おちゃんの全部
私にちょうだい！！！！

そう懇願するかのよう
僕を求めてくれる
千夏ちゃんが
堪らなく可愛くて愛おしい

はあ
はあ
はあ

んあ
お…

「千夏ちゃんを
僕のものにしたい」

そんな事を言ったら
たぶん生意気だと
からかわれるだろう



あー

あー

出てる！

でも今だけは
誰のものでもない
僕だけの千夏ちゃんが
ここにいる

そう、夏休みはまだ
始まったばかりだ

すかぞいっばい...!!!

ビクビク...

ふふふ...

ア...ア...

ビク...

ビク...



ほら大ちゃん、

こっち向かないと
前洗えないでしょ

いいいよ
自分で洗うから

.....

ひよっとして
また勃っちゃった？

べつに今更
恥ずかしがること
でもないのに

七海 千夏(ななみ ちなつ)

『ダイビングショップななみ』の看板娘。
普段はファミリーレストランで働き、
シーズン中はインストラクターとして
活動している。

身長:168cm

体重:54kg

B/W/H:93(F)/62/88

職業:ダイビングインストラクター/
ファミリーレストランアルバイト

趣味:水泳、ジョギング、生物写真撮影

資格:普通自動車免許、二級船舶免許
潜水土、OWSI(オープン・ウォーター・
スクーバ・インストラクター)

好きな食べ物:魚介類全般

嫌いな食べ物:乾燥した野菜

好きな動物:シャチ、トビウオ、犬

